

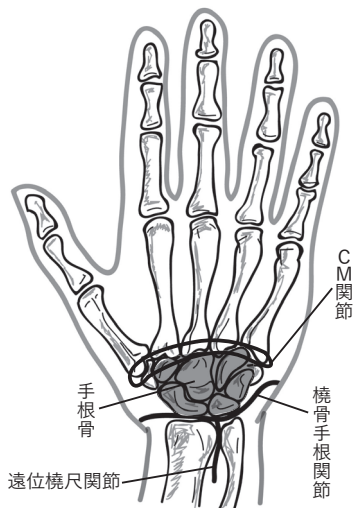
従来の【指奏法^[25]】では、基節骨は単独で鍵盤を压する能力があることを利用し、互いに対立して動く指節骨の伸展と屈曲がテクニックの本質を担った。これに対してヤンケのコンセプトでは、指の内在筋が、前腕にある筋肉（総指伸筋、浅指屈筋、深指屈筋^[26]など）と協力して、ピアノ演奏での【手の安定したフォーム】と【打鍵】を担っている。「第2から第5指では、内在筋の収縮を介して指のMP関節を屈曲させると、中節骨と末節骨は自動的に伸びる（第3関節を曲げると指全体が伸びる）」という解剖学的な事象は、ヤンケが主張する「MP関節から先を伸ばしたままの指で腕全体の重量を支える」という【手の安定したフォーム】を大きく裏づけるものである。手の小指伸筋群^[27]の機能にも関係して指が伸びるといふこの特性は、ヤンケの大きな発見で、先人達の多くの「演奏法」に関する文献の中にも記述の例を見ない。

d. 手首（手関節）

手首（手関節）には、**手根骨**^[28]と呼ばれる骨があり、CM関節に続いて、橈骨の関節面との間で**橈骨手根関節**^[29]を成している。橈骨手根関節は手根骨と尺骨にもつながって、**背屈**^[30]、**掌屈**^[31]、**橈屈**^[32]、**尺屈**^[33]と、左右上下の動きを可能にしている。

背屈とは、前腕を止めたままで手を甲の側に曲げる動き、**掌屈**は手を掌の方に曲げる動き、**橈屈**は手を親指の方に曲げる動

手首の関節



25 ハイフィンガー奏法を始め、指の筋肉のみに頼って演奏する奏法を指す。

26 p.216～217参照。

27 前腕にある総指伸筋、固有小指伸筋の総称。

28 Carpus 指側と腕側で4個ずつ2列に並んだ短い骨で、様々な形をしている。

29 Radiocarpal articulation 手関節の主な部分で、手根骨と橈骨との間の関節。

30 Dorsalflexion p.225参照。

31 Palmarflexion p.225参照。

32 Radialabduktion (独) / Radial flexion (英) p.226参照。

33 Ulnarabduktion (独) / Ulnar flexion (英) p.226参照。